

ベナンの風便り

2010年3月号

みなさんお元気ですか？こちらはベナンでの生活もあと1週間で、帰国の準備をしているところです。2年間続けたこの通信も今回が最後ということで、ベナンでの生活を通して特に強く感じたことをお伝えしたいと思います。

ベナンでの生活を通して感じたこと

○学校について

中学校卒業まで全員が学校へ通うことができ、無償で教科書をもらえ、何の不自由もなく勉強することができる。日本で生活しているとこの素晴らしさが分からないですが、外に出てみるとこれがいかに幸せなことなのかということを感じ知らされます。ベナンでは就学率が高くなく、学校に行かずに家の手伝いをしている子どもたちがたくさんいます。小学校の授業料が無償になったといえど、制服や文房具などのお金が払えないのです。また例え学校に通っていても毎年進級試験があるため、勉強を続けたくても続けられない場合もあります。教科書もありません。そして教員による賃金関係が原因のストライキが頻繁に行われるため、授業が行われず、その結果、勉強しないといけないう内容が終わらずに学年が終了してしまいます。でも教科書がないため、自分で勉強することが困難な状況です。その結果、お金持ちは家庭教師をつけたり、ストライキ等のない私立の学校に通わせたりするのですが、一般の人にはそれは不可能なことです。結局格差が開いてしまっている状態です。全員に平等に学ぶ機会が与えられている日本の子どもたちは本当に幸せだと感じました。



わらで作られた学校の様子

○生活について

少子化、核家族化の進む日本とは正反対のベナン。町の中にはパンツードで走り回っている子どもたちがあふれ、家に行くと家族だけでなく、たくさんの人たちと助け合って生活しています。その中で強く感じるのが人と人のつながりの深さ。知らない人同士でもまずは握手をして挨拶をし、まるで友達のように話をします。地域では小学生くらいの子どもの、小さな子どもの世話をし、みんな一緒に遊んでいます。そしてその様子は地域の大人たちが見守っていて、

子どもが悪いことをすると、自分の子どもでなくても叱って指導をします。日本では学校生活を通して学ぶことを、ベナンでは日常生活を通して自然に学ぶことができます。そういった面を考えると、日本はベナンから学ぶ面がたくさんあるのではないかと感じました。

しかしながら生活は金銭的に厳しく、働いて給料を得ても、それは食費に消え、日本のように生活を充実させるためにお金を使うことができません。そのためか賃金向上を求めるストライキが多く、今年度は年の約半分がストライキでした。ベナン人からは「日本は給料をたくさんもらえていいよな。」と言われます。先生は「日本は物価が高いし、朝から夜まで休まずに働いているんだよ！」と言うのですが、「例えそうでも食費以外にお金を使えるんでしょ？それに休みがなくても、仕事があるだけまだ！」と言います。いくら日本が就職難だといっても、働き先が全く見つからないベナンの状況とは根本的に違って、ある程度安定した生活を送ることができる日本人は本当に幸せだと感じました。

○文化について

日本という国はベナン人にとってどんな国なのでしょう？ベナン人が日本人を見たときに言うことというと、「シノア！（中国人）」「ニーホー（中国語のこんにちわのつもり）」「ジャッキー！（ジャッキーチェンのこと）」。全世界の5分の1ほどの人口を占める中国人に間違われ、「ジャポネ！（日本人）」「こんにちわ！」と言われることは、まずありません。日本は世界の先進国の中でもトップクラスの生活水準を誇っていますが、ベナンの人たちにとってはどこにあるのかも分からない小さな国なのです（トヨタやホンダ、ソニーなどの言葉は知っていて、日本製は質が良いということは知っています）。

そんな日本が世界に誇れることとは何でしょうか？先生がベナンで生活していて特に感じた日本の良さは、「勤勉さ」「清潔さ」です。日本では当たり前なことなのですが、時間を守るということはベナンだけでなく、多くの国であまり出来ていません。職場でもそうですが、学校でも同じで8時開始の授業が遅れることは当たり前、時には9時過ぎになっても先生が来ずに、下校することもあります。仕事をする際の勤務態度も良くなく、客に対する接客態度はひどいものです。またベナンでは道端で多くのゴミを見かけます。これは学校でも同じで、授業前に教室を掃除する習慣はあるのですが、すぐに床にはゴミがあふれ、校内にはゴミが散乱しています。昔の名残でそうなっているのですが、日本の清潔さは本当に素晴らしく、世界に誇れることなのではないかと思いました。

ベナンで2年間生活してみて、日本という国を客観的に見ることができました。ベナンには日本にない素晴らしいところがたくさんあり、日本にはベナンにない素晴らしいところがたくさんあります。大切なのは他国の良いところを見習って、自国の文化を見直すことではないかと思っています。これからの日本を支えていくみなさんには、是非広い視野を持って活躍をしてもらいたいと思っています。

みなさん、2年間どうもありがとうございました！また4月にお会いしましょう！